

# 埋文さいたま

# MAIBUN SAITAMA

埼玉県の遺跡と出土品の情報誌

No. 66

特集 2

勾玉  
まがたま

特集 1

新たに

国の史跡に指定

みなみひきかまあと  
南比企窯跡  
さんのうづかこふん  
山王塚古墳

(川越市)

(鳩山町)

鳩山町 南比企窯跡 石田遺跡第1次A区1号窯・1号竪穴建物全景

写真：鳩山町教育委員会

さいたま発掘情報

(2022年1月～12月)

令和四年度 文化財収蔵施設 新収蔵資料

まいぶん探訪

寄居町鉢形城歴史館



埼玉県マスコット  
「コバトン」「さいたまっち」

監修/発行 埼玉県教育委員会  
企画/編集 公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

彩の国  
埼玉県

# 新たに 国の史跡 に指定

## 特集 1

このたび、鳩山町に所在する南比企窯跡と、川越市に所在する山王塚古墳が国の史跡に指定されることになりました。史跡とは「日本の歴史を正しく理解するうえで欠かせない学術的価値をもつ重要なもの」とされています。今回の指定により、県内の国指定史跡は 25 件になります。

### 国史跡指定

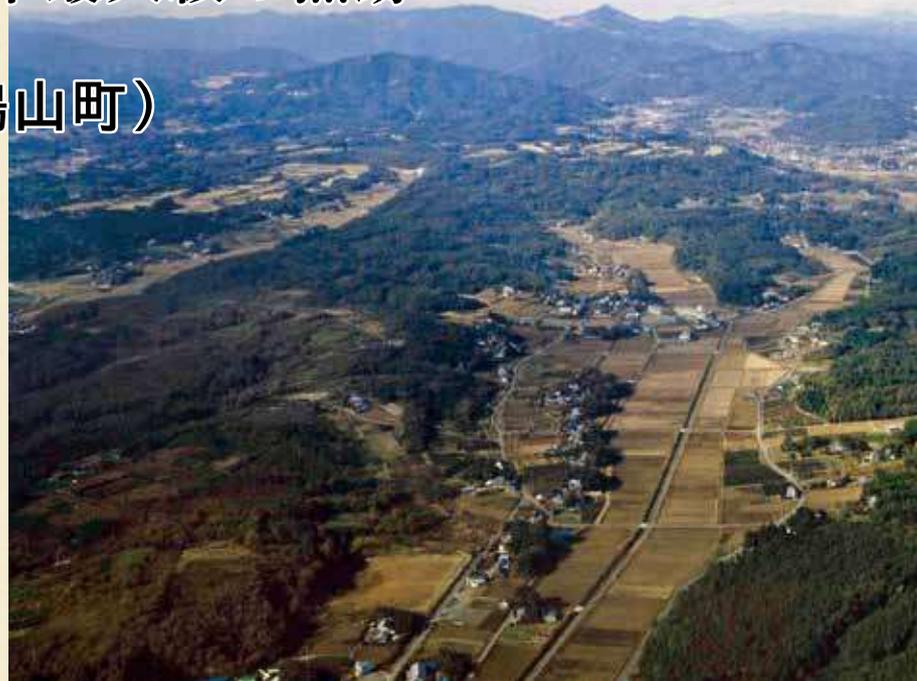
## 東日本最大級の窯跡

みなみ ひ き かま あと

## 南比企窯跡（鳩山町）

### 概要

南比企窯跡は鳩山町を中心に、嵐山町・ときがわ町・東松山市の一部にかけて、東西約 4.5 キロ、南北約 5 キロの範囲に分布しています。6 世紀前半から 10 世紀中頃にかけて操業され、作られた製品は武蔵国内の地方官衙や集落、武蔵国分寺・国府のほか上野や下総、相模などに供給されていました。今回指定を受ける石田遺跡、天沼遺跡、新沼窯跡は共に鳩山町に立地しています。



新沼窯跡・天沼遺跡 俯瞰（東から）



新沼窯跡 B 区全景  
（北東から）



天沼遺跡 B 区  
灰原遺物出土状況（南東から）

### 指定までの流れ

平成 21 年に文化庁が視察を行い、石田遺跡などを史跡指定することが望ましいとの評価を受けました。平成 24 年から平成 27 年にかけて石田遺跡第 2 次～ 4 次調査を実施し、平成 22 年から平成 24 年にかけて新沼窯跡第 1 次～ 4 次調査を実施しました。

令和 4 年には南比企窯跡のこれまでの調査結果を総括した『南比企窯跡群総括報告書 I』を刊行しました。その後、意見具申書を提出し、国の文化審議会の答申を経て国史跡に指定されます。



新沼窯跡 12号窯跡全景  
(南東から)

南比企窯跡は、大正8年(1919)に旧亀井村(現鳩山町)郷土史家の小鷹健吾が村内の窯跡を踏査し、私家版「亀井窯趾郡につきて」において15地点の窯跡の存在を明らかにしたことにより、知られるようになった。戦後になると、立正大学や早稲田大学、東京大学による発掘調査が行なわれ、窯の構造や出土遺物と供給先との関係の究明が進んだ。昭和51年(1976)からは埼玉県立歴史資料館(現埼玉県立嵐山史跡の博物館)による分布調査が行なわれ、窯跡の分布範囲や窯数等が明らかにされた。その後も鳩山町教育委員会による鳩山窯跡群の調査など継続的な調査が行なわれている。



新沼窯跡 鬼瓦

新沼窯跡 出土須恵器



### 石田遺跡

7世紀後半～10世紀中頃までの瓦窯19基、竪穴建物5軒、瓦溜まり1箇所が確認されている。7世紀後半以降の窯体構造の変遷や勝呂廃寺等に瓦が供給されていたことが分かっている。出土遺物には瓦、須恵器、土師器、鉄製品、陶製仏殿がある。

### 新沼窯跡

8世紀中頃～後半を中心に操業した窯跡で、窯跡26基、灰原等が確認されている。出土遺物には、須恵器、円面硯、瓦、鬼瓦、塼、瓦塔等がある。瓦には郡名や郷名、人名、記号等の文字瓦があり、武蔵国分寺創建にあたり集約的な瓦生産が行なわれたことを示しており、造瓦体制の実態を知るうえで重要な遺跡である。

### 天沼遺跡

8世紀中頃～9世紀中頃の窯跡2基竪穴建物9軒等が確認され、新沼窯跡の工房・工人集落と考えられる。

### 南比企窯跡



比企郡鳩山町大字赤沼字石田1415番1ほか

監修：鳩山町教育委員会

国史跡指定

じょうえん か ほうふん

# 日本最大の上円下方墳

さんのうづか こふん

## 山王塚古墳 (川越市)



山王塚古墳の遠景 (南から)



復元図  
(縮尺1/1000)

### 概要

山王塚古墳は川越市大塚一丁目および豊田町三丁目に所在し、武蔵野台地北端部の西側縁辺に立地します。7世紀第3四半期に築造された上円下方墳です。上円部の直径37m、下方部一辺69m、墳丘盛土の高さ5m、周溝を含めた規模は一辺約90mで、墳丘の遺存状況は極めて良好です。



羨道で検出した前門柱石  
(南から)

## これまでの成果

平成24年度から平成29年度に実施した4回の発掘調査で、墳丘構築過程、主体部形状、築造時期等を明らかにしました。

古墳は旧地表面を整地した後に、上円部、下方部・周溝の順で成形されています。また、墳丘は関東ロームを叩き締めて構築されていました。埋葬主体は南に開口する奥行き9mの3室構造の横穴式石室にハの字状に開く長さ6mの前庭部が伴うものです。良質な関東ロームを版築工法で叩き締めて構築した高さ1.8mの基壇状の盛土の上に構築されています。



羨道礫床検出状況  
(南から)



羨道の側壁検出状況 (南東から)



羨道から出土した須恵器  
(フラスコ形長頸瓶)



前庭部から  
出土した須恵器  
(平瓶)

## 指定までの流れ

昭和33年に川越市の指定史跡となりましたが、その後、山王塚古墳の史跡整備を求める地元住民の声が挙がり、それを受け平成24年から史跡の内容確認調査を実施しました。平成26年には川越市山王塚古墳調査検討委員会を設置し、指導を仰ぐとともに、文化庁、埼玉県とも継続的に協議を行いながら調査を進めました。

これらの成果をもとに、平成31年3月に総括報告書を刊行し、令和4年8月に文部科学大臣へ意見具申、令和4年12月16日に国の文化審議会から文部科学大臣へ山王塚古墳を国史跡に指定するよう答申されました。今後の官報告示を経て国史跡に指定されます。



監修：川越市教育委員会

# 勾玉 まがたま

勾玉とは、C字形のように湾曲し、一端に孔のある玉をいいます。このような形の玉は、朝鮮半島の一部を除いて、ほかではみることができません。勾玉は縄文時代から奈良時代に至るまで、首飾りなどの垂飾りとして愛用されました。

## 縄文時代の勾玉



かっせき製  
滑石製

長さ  
2.8cm

重さ  
4.3g

うたや  
雅楽谷遺跡 (蓮田市)



へきぎょく製  
碧玉製

長さ  
2.5cm

重さ  
4.2g



こうぎょく製  
硬玉製

長さ  
2.7cm

重さ  
6.1g

いしがみ  
石神貝塚 (川口市)

勾玉の起源には、動物の歯牙に孔をあけた垂飾りが原型であるという説、生まれる前の胎児を模したという説など、諸説あります。近年は、縄文時代前期に流行した環状の飾り玉の半欠品から発展した、という説が有力です。この時期の勾玉には、頭や腹に突起や刻み目があるものがみられます。

## 弥生時代の勾玉



碧玉製

長さ  
2.2cm

重さ  
4.3g

すだろじんじゅ  
須黒神社遺跡 (さいたま市)

土製勾玉



長さ 2.4cm  
重さ 2.9g

たまふとおか  
玉太岡遺跡 (東松山市)



長さ 2.7cm  
重さ 3.9g



長さ 3.1cm  
重さ 4.8g

おおのだにし  
大野田西遺跡 (嵐山町)

弥生時代になると、頭が丸く尾にかけてきれいに湾曲する定形化した勾玉が出現します。土製の勾玉は、関東地方では弥生時代後期に盛んにつくられるようになります。竪穴住居跡から出土する例が多く、屋内で行われた祭祀に使われたものと考えられています。

## 古墳時代の勾玉



国宝

ヒスイ製

長さ  
4.0cm

さきたまいなりやま  
埼玉稲荷山古墳 (行田市)



メノウ製

長さ  
3.4cm

重さ  
7.8g

とんぼ  
蜻蛉遺跡 (草加市)



メノウ製

長さ  
3.4cm

重さ  
9.1g

いなりまえ  
稲荷前遺跡 (坂戸市)

古墳時代の中頃には、勾玉は鏡とともに権威を象徴する宝器として取り扱われるようになります。後期になると豪族の装身具として量産され、頭と尾が角ばる「コ」の字に近い勾玉が流行します。文献史学では、「玉」は「魂」に通じるとされ、玉を身につけることは靈威を身につけることを示すという考え方もあります。

大型の勾玉の側面や背・腹に小さな突起をつくりだしたものをいいます。凹字状の突起を勾玉に見立てて、子持勾玉と名付けられました。古墳時代の5世紀中頃に出現し、7世紀後半まで出土例があります。突起の数や形はさまざまで、省略化が進むと突起は失われていきます。子持勾玉は玉のもつ靈力を増幅させる呪術的な遺物と考えられています。多産や豊穰など、増殖を願う祭祀に使われたのかもしれませんが。



滑石製  
長さ 10.1cm  
重さ 287g

あきやまおまち  
秋山大町遺跡 (本庄市)

写真提供：  
本庄市教育委員会



滑石製 長さ 7.5cm 重さ 81.4g

しもだまち  
下田町遺跡 (熊谷市)



滑石製 長さ 9.8cm 重さ 65.9g

じょうしきめん  
上敷免遺跡 (深谷市)



滑石製  
長さ 11.8cm  
重さ 113.5g

きたおおたけ  
北大竹遺跡 (行田市)



滑石製 長さ 10.0cm 重さ 181g

2022年1月～12月

# さいたま発掘情報



たてあなじゅうきよあと  
縄文時代中期の竪穴住居跡を発見

## 1 <sup>やま</sup>山遺跡 第18地点 (白岡市)

山遺跡は、大宮台地東部の白岡支台西縁部に営まれた遺跡です。縄文時代中期の竪穴住居跡が数多く発見されるなど、同時期の大規模な集落跡として把握されています。その他にも、奈良・平安時代の木炭窯跡や中・近世の陶磁器なども検出されています。

今回の発掘調査では、縄文時代中期の竪穴住居跡を2軒発見しました。その内1軒の住居跡の中心からは、口縁部から胴部にかけての埋設土器が出土しました。その他に、大きめの縄文土器の破片が住居跡内に散らばった状態で出土しました。



調査区東半部



調査区西半部



住居内遺物出土状況



調査風景



埋設土器

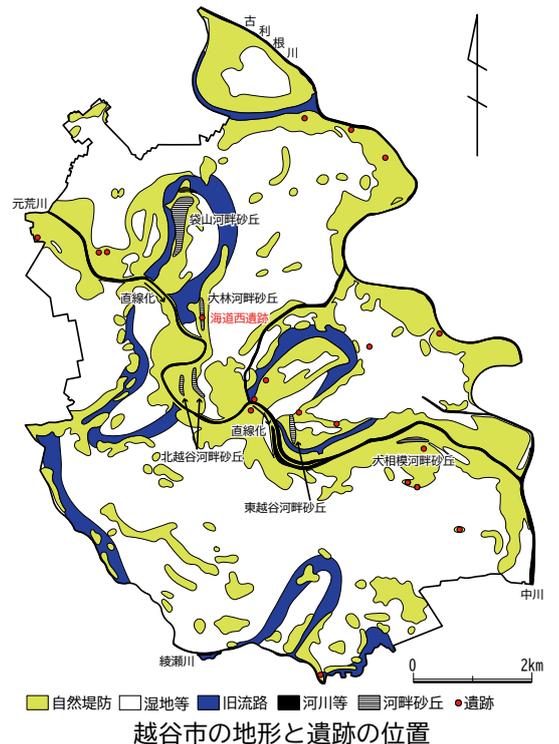
調査機関・文：白岡市教育委員会

かはんさきゅう  
**河畔砂丘上の遺跡！**

かいどうにし  
**2 海道西遺跡（越谷市）**

遺跡は越谷市大字大林字海道西にあり、元荒川（利根川の旧河道）左岸に発達した河畔砂丘上に位置しています。河畔砂丘とは、榛名山や浅間山の火山灰等に由来する大量の砂が、季節風により、利根川の旧河道沿いに吹き溜められて形成された内陸の砂丘で、羽生市から越谷市にかけて点々と分布しています。

調査では9世紀後半から10世紀初頭の、カマドを持つ竪穴住居跡2軒が発見されました。武蔵型甕などの土師器のほか、南比企窯跡群、末野窯跡群、東金子窯跡群、新治窯跡群、三和窯跡群の須恵器が出土しています。



調査機関・文：越谷市教育委員会

全国2例目の<sup>りよくゆうとう き ごう す</sup>緑釉陶器合子が出土

3 <sup>ひがしほんじょう</sup>東本庄遺跡C地点 第Ⅱ次調査 (本庄市)

東本庄遺跡は、上越新幹線の本庄早稲田駅から東に約3kmに位置します。今回の発掘調査では、古墳時代～奈良・平安時代の集落跡や中世の屋敷跡が見つかりました。

平安時代の<sup>たてあなしゅうきよあと</sup>竪穴住居跡から出土した緑釉陶器の合子は、愛知県の<sup>さなげよう</sup>猿投窯で焼かれた貴重品で、京都市に次いで全国で2例目の発見となり注目されます。

中世では堀跡や井戸跡、かわらけ溜りなどが発見されました。かわらけ溜りは5箇所あり、あわせて1000点以上のかわらけが出土しました。これらの遺構は、この遺跡のある地域に伝わる東本庄館跡の一部と考えられます。



調査区全景



緑釉陶器 (合子)



かわらけ溜り調査の様子



合子が出土した竪穴住居跡



かわらけ出土状況



かわらけ溜り

# 文化財収蔵施設 新収蔵資料

埼玉県文化財収蔵施設（熊谷市船木台4-4-1）には、県内各地の遺跡の発掘調査で出土した資料が40万点以上収蔵されています。国や県の開発事業に伴い発掘調査した遺跡の出土資料は、発掘調査報告書が刊行されると文化財収蔵施設に収蔵され、学校教育、生涯学習、博物館等、さまざまな場での活用が図られています。

くりはししゅくにしほんじんあと

## 栗橋宿西本陣跡（久喜市）

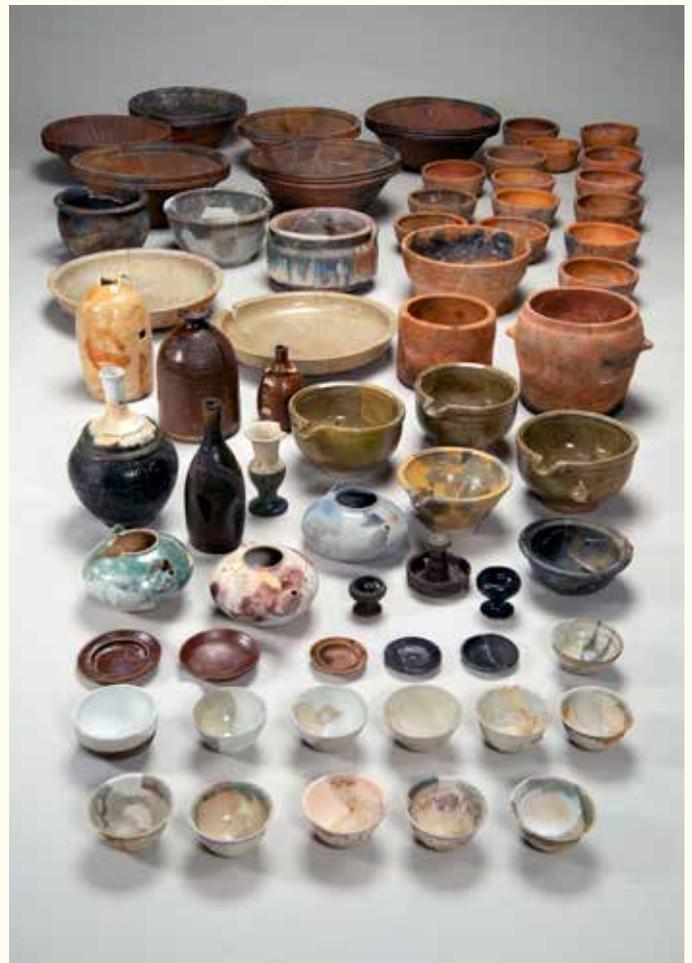
事業団報告書第479集 『栗橋宿西本陣跡Ⅰ』

栗橋宿西本陣跡（久喜市栗橋北二丁目）は、日光道中7番目の宿場「栗橋宿」の町屋跡です。火災に関わる廃棄物を処理した土壌が発見され、陶磁器などさまざまな遺物が出土しました。この火災は、史料にみえる文政五年（1822）の栗橋宿大火と考えられています。

遺物は、少量の中国産磁器のほか、国産陶磁器が大量に出土しました。組物も多く含まれています。土壌を中心に出土した多種多様な一括遺物は、近世における地方宿場町の実態を示す良好な資料に位置づけられます。



火災処理土壌出土遺物 磁器



火災処理土壌出土遺物 陶器・土器

## 寄居町鉢形城歴史館

鉢形城歴史館は、国指定史跡の鉢形城跡を紹介する施設として、平成16年（2004年）鉢形城公園の開園と同時に開館しました。

常設展示室では、復元された櫓門、鉢形城のジオラマや映像で、鉢形城の歴史や構造を学ぶことができます。企画展示室では、鉢形城に関するテーマでの展示や、寄居町の出土品の展示など、幅広い内容での展示が行われています。

鉢形城公園では、発掘調査の成果をもとに堀や土塁、門などが復元整備されています。また、桜の季節には町指定天然記念物のエドヒガンなど、桜をみる来園者が多く訪れます。



企画展示室

常設展示室



三の曲輪石積土塁と  
復元四脚門



鉢形城全景（北から）

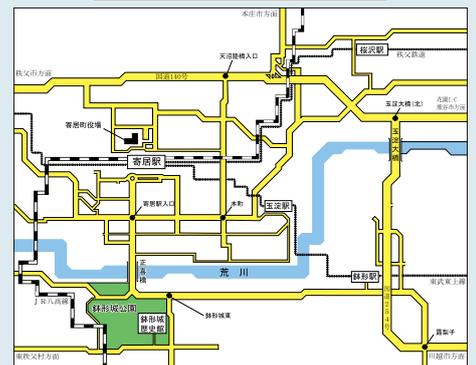
敷地内のエドヒガン  
（町指定天然記念物）



## 鉢形城歴史館のご案内

- 住所 〒369-1224 埼玉県大里郡寄居町大字鉢形2496-2
- 開館時間 午前9時30分～午後4時30分（入館は午後4時まで）  
駐車場のご利用は開館日の午前9時～午後5時
- 休館日 月曜日（月曜日が祝日の場合は、その翌日）、祝日の翌日、年末・年始
- 入館料 一般／200円（団体／100円）  
学生等／100円（団体／50円）  
70歳以上、小学生・中学生以下、障害者手帳をお持ちの方／無料（申請書は不要です）  
※20名以上の団体の場合は、団体料金が適用になります。  
※ペットを連れてのご入館はお断りしております。盲導犬等の身体障害者補助犬を伴ってのご入館は可能です。
- 交通案内 車：関越自動車道花園IC下車、国道140号バイパスを秩父・長瀨方面へ6km、約15分  
電車：JR八高線・秩父鉄道線・東武東上線 寄居駅下車、徒歩約25分  
バス：イーグルバス 寄居駅発・和紙の里行き「鉢形城歴史館前」下車、徒歩約5分
- 電話 048-586-0315

地図を Google マップで開く



（画像等はすべて寄居町教育委員会提供）